

令和4年第2回小規模多機能型事業所

「紙ふうせん」運営推進会議議事録

日 時：令和4年6月23日（木）10：30～11：30

場 所：野栄福祉センター 1階和室

出席者：大木公正 伊藤良一 大木健守 伊野喜代司 及川大樹 太田奈津栄

市高齢者支援課 外口

〔 社協 渡辺副会長 塚本局長
紙ふうせん 〕

●開会のことば 渡辺副会長

●委員長あいさつ

●議題

（1）令和4年度4月・5月運営状況及び利用実績の報告について

委員長：以上報告がありました但何か質問はあるか。

伊 藤：農繁期は泊りが増えると聞いたが、今回は泊りがないのか。

佐 藤：専業農家の利用者はおらず、農繁期もあまり関係なくなっている。

委員長：介護認定の手続きに時間がかかりサービスを利用できないという話を聞か
が。

外 口：認定は受けているがサービスにつながらないということか。

施設の受け入れ状況や利用者側の希望、また認知症など本人の状態でケアマ
ネと施設でその人に合う曜日を考えたり、曜日や日程の調整等で時間がかつ
てしまうことがある。

委員長：調査から認定がおりにるまで1か月ぐらにかかるとか。

外 口：窓口で手続きをして1か月ぐらだが、病院によっては主治医の意見書がな
かなか市役所に届かない場合もあり、更に時間がかかることも有る。

大 木：介護認定がおりにないとサービスは受けられないのか。

外 口：1次判定が出た段階で相談はできるが、介護度がつかないとサービスを利用
してしまった場合自費になってしまうので認定が出てからの方がよい。

大 木：1か月かかると身体状況が変化してしまう場合がある。

委員長：社協の理事でも紙ふうせんはどういう施設か知らない人も多い。栄地区の利
用者が多いと栄地区だけが優遇されているように思う人もいる。もっと市の
ほうでも紙ふうせんをアピールして市全体で利用者が増えればよい。

佐 藤：小規模多機能は本来各中学校区に1か所ということになっているので栄地区の利用者が多いのは地域に浸透している正しいあり方である。

外 口：特定の事業所だけを窓口で勧めるわけにはいかないが、市民病院の相談室などにアプローチしてみてもどうか。

太 田：自分も親戚に利用を勧めてみたが、紙ふうせんを利用すると今までのケアマネから紙ふうせんのケアマネに変えないといけない。高齢者は新しく関係を作るより慣れた人の方が良いと思うのでネックになっているのではないか。また、施設のように機械浴が無いので動けない人は入浴出来ないのではという不安もある。

委員長：行事報告についてなにか質問はあるか。

及 川：4・5月は花見に行っているが利用者の様子はどうか。

佐 藤：みんな喜んではいるが駐車場からその場所まで歩くことが多く、車いすやシルバーカーを持って行くにも台数が限られてしまっている。少しの距離でも歩くのが大変になってきているので、年々大変になってきている。歩けない人は車の中から見ている。

家族で外出の機会もないので疲れるが行って良かったという声を聞く。

太 田：個人ボランティアの受け入れはどうか。

委員長：コロナも収束してきているが以前のようなボランティアの訪問はどうか。

佐 藤：現在はまだ受け入れていないが、周辺施設の状況を見ながら進めていきたい。

(2) その他

局 長：外出先が毎年同じような所なので他に良い所があれば情報提供をお願いしたい。

及 川：気持ちが清々するので高齢者に海を見てもらってはどうか。

委員長：蓮沼の海浜公園なら車から見えるのではないか。

伊 藤：吉崎浜なら車が入れる。

太 田：個人宅のバラのきれいな庭等が見せてもらえればいいが。

委員長：高齢者支援課から何かあるか。

外 口：相談窓口として紙ふうせんに合いそうな方がいれば勧める。

これから熱中症対策に気を付けて高齢者と過ごしてもらいたい。

局 長：報告が遅れたが、前回の推進会議からすぐに農協の本部より連絡があり、屋上の防水工事と屋根の手前のパラペットのさびた部分の交換の工事が終了した。

●閉会のことば 渡辺副会長